

## 新たな情報通信技術戦略の策定に関する意見

1. 個人／団体の別：個人
2. 氏名／団体名：非公開
3. 連絡先：非公開
4. ご意見：

参考資料 2 の「具体的な取組(例)」の番号を参照してコメントいたします。

### (1)「4.社会保障・税共通の番号制度の導入」「6.公的 IC カードの整備・合理化」「全国共通の電子政府サービスの環境整備」について

これらは同時に行うべきと考えます。キーポイントは、共通番号、IC カード、IC カード利用によるサービスです。

政府で管理する国民用 IC カードによって全国民が電子政府の恩恵にあずかれる環境をつくるのが先決です。

そのような ICT インフラをつくれれば、IC カードによる個人認証を利用した各種サービスがより活発に展開されると予想します。

利便性の高いサービス展開には、何がなくとも個人特定の仕組みが必要なので優先順位は「高」と考えます。

優先順位：高

目標：実用性、導入コストの評価を行うことを目標とします。

スケジュール：構想決定に1年、実証実験に1年とし

課題：IC カードのタイプをあわせる必要があります。

Suica 等の交通 IC カードや住基カードを利用することも考えると Type B や Type C のハイブリッドリーダー/ライターを導入する必要があります。

あるいは現状とは違う仕組みでの IC カードシステムの構築も視野に入れておくべきだと思います。

### (2)「12.どこでもつながる医療・健康情報の実現(「全国どこでも MY 病院」構想)」「14.医療情報に関する個人情報に関する個人情報保護規則の改善」について

医療の個人情報保護に関しては、米国の HIPPA 法※が非常に参考になります。一部医療機関で導入されていますがなかなか大変なことも事実です。

そこで、まずはお薬手帳と医療履歴の電子化との関連付けを医療機関間で共有するところからはじめてはいかがでしょうか。

とくに、服用すると胎児に影響が出る飲み薬などは、「その薬の副作用」と「今妊娠しているか」を同時に知り、妊婦が服用する前に気づく必要があります。

服用した後では取り返しがつかない事態になるので医療履歴、処方する薬、薬の副作用をリアルタイムにリンクして通知する必要があります。

優先順位としては、(1)による国民番号制度の整備が必須条件なので優先順位は「中」と考えます。

※HIPPA: Health Insurance Portability and Accountability Act の略。医療保険の携行と責任に関する法律

優先順位 : 中

目標 : 導入障壁を取り除く方策決定を目標とします。

スケジュール : 重大な副作用がある薬の洗い出しに 3 ヶ月、その薬の副作用の影響が強い身体状況の洗い出しに 3 ヶ月、

医療情報と薬および副作用の履歴の残し方のシステム構想決定に 1 年、特定地域での実証実験 1 年。

課題 : 医療機関で共通になる仕組みとなるようにシステム構想をまとめることが必要です。

(3)「17.テレワークの推進」「32.高信頼な「組み込みシステム」等の開発」について

テレワークに必須であるセキュリティと、組み込み装置高信頼化のためのフォーマルメソッド開発は非常に親和性が高いと考えます。

ただ、セキュリティはどうしてもコストアップ要因として2の次にされてしまう状況であり、企業での研究開発や装置への適用はなかなか進みません。

そこで、防衛省でのセキュリティ対策を先行して行い、その成果を民生に展開していく方法が良いのではないかと思います。

具体的には、ISO/IEC15408(通称 CC)の国際認証での EAL(Evaluation Assurance Level)のうち最もレベルの高い EAL7 の国内評価スキームを構築し、その成果物を防衛省で導入して実証します。

その成果(例えばモジュール、OS、システムなど)を国内企業のセキュリティ対応に展開することで企業のセキュリティ対応の迅速化が図れると考えます。

現状のセキュリティ対応でも産業は成立しているので優先順位は「中」といたしますが、これからの日本の基盤技術を育てるためにも

取り組んでおくべき内容と考えます。

EAL7 のスキームがある国は米国、カナダ、ヨーロッパなどのみで、日本にはスキームすらありません。

また、実際に EAL7 の認証取得をするための PP(Protection Profile)の作成、認証取得する製品の ST(Security Target)作成など、海外に比べて相当出遅れているところを

一気に巻き返しておきたいです。

優先順位 : 中

目標 : サブ目標として EAL7 のスキーム構築完了、対象製品の EAL7 での CC 認

証取得完了を目標とします。

スケジュール : CC の EAL7 のスキーム構築に 2 年、実際に EAL7 認証取得に耐える製品開発に 2 年、認証取得活動に 2 年

課題 : EAL5 以上の認証スキーム構築から着手していく必要があります。

セキュリティのアーキテクチャや強度も含めて EAL7 の評価を要求する PP の作成も必要です。

#### (4)「35.空間(三次元)位置情報サービスの創出」について

現状、さまざまな位置情報サービスの展開がされていますがその基となる空間情報の整理が不十分と感じております。

例えば、道路整備や鉄道延伸の情報は都道府県をまたがって大規模に行われるため政府が把握することは難しいと思います。

それにもかかわらず国土数値情報はなかなか最新にならず見劣りする情報となってしまうと思います。

そこで、空間情報の体系的な管理・分類・利用のための仕組みづくりと並行して各省庁に分散している国土数値情報の整備と、

都市計画情報のシームレスな取り込みの仕組みをまとめることに注力することが先決と考えます。

国土数値情報の整備状況や JPGIS「地理情報標準プロファイル(Japan Profile for Geographic Information Standards)」がうまく推進されている状況から、

優先順位は「低」と考えます。ただし、今後の電子国土の普及のためにも進めるべきと考えます。

優先順位 : 低

目標 : 空間情報の体系的な管理・分類・利用のための仕組みの試験運用を行う。

スケジュール : 政府内の国土数値情報の洗出しに 1 ヶ月、都市計画情報の取り込みの仕組み構想に 1 年、空間情報の体系化に 1 年。

課題 : 実用可能な標準ルールの規定が必要です。

情報整備する側がデータ整理した結果を、いかに自動的に標準ルールに則った形式に出力できるかが大きな課題です。

#### (5)その他「具体的な取組(例)」について

上記(1)から(4)以外の「具体的な取組(例)」の優先順位は「低以下」で良いのではと思います。必要性に応じて着手判断することで問題ないと思います。

以上